

臭気判定士会 平成 28 年度 第 1 回意見交換会報告

平成 28 年 7 月 30 日（土）東京日本橋タワーで意見交換会が開催された。参加者は 25 名（非会員 1 名）。日常生活でのにおいに係ることを主テーマとした。居住空間や自動車内など生活空間に関すること、におい苦情の調査・対策報告例等である。講演は(株)アスカム（以降、A 社と記す）松浦弘直氏、祐川当会会長、パネルディスカッションでの有志発表として中田祐志氏の 3 人の方であった。多機能建築資材、苦情現場対応例、技術革新に伴って顕在化してくる臭いの諸問題等、その方向性と課題について意見交換した。パネルディスカッション座長は祐川会長、パネラーは柿本社長（日本デオドール）、松浦氏、中田氏の 3 名。

○松浦弘直氏講演概要：A 社の会社説明。静岡県吉田町でヒノキ間伐材など豊富な森林資源を活用。住まいの室内環境改善・維持・清浄化等を考慮した建築材料・室内装飾品を提供。間伐材にミネラル豊富な粘土をコーティング・高温炭化させたセラミック炭を製造している。吸着性能はヤシ殻活性炭とほぼ同様であることが確認された。それを応用・機能向上させて商品化している。通常の活性炭の性能に加え、ラベンダーや森林の香り等を残し悪臭だけを選択吸着する特殊吸着炭である。静岡県は木材資源が豊富であることからタンス等家具関連企業が多く存在する。原材料の仕入れや特殊吸着炭を応用した資材（調湿材、壁紙、インテリア・快眠雑貨、医療用具等）の提供など、優位性を活かして事業展開している。

○祐川会長講演概要：苦情対応例 2 件紹介。例一①（駅ビル店舗改装後の不快臭）：臭気源の疑いある部材を持ちかえり原因調査した。店舗従業員は、順応のためか被害感はない。巡回員が不快臭を感じている。不快臭は「酸っぱい・楽に感知」する程度。店内の化粧壁木材部（塗装無）で苦情原因のにおいあり。一部持ち帰り、試験用バックに入れ無臭空気を充填・暫らく放置、臭いが感ぜられた。使用木材は易加工性の主産地西アフリカの装飾木材であった。（一般財団）日本木材総合情報センターに相談し調べたところ木材そのものに臭気はなかった。貼り付けに用いた木工ボンド（酢酸ビニル系）が原因であった。二つの対策案を提案した。塗装部にはおわないので、塗装を施工して防ぐ封じ込め法と装飾壁の適切な場所に活性炭吸着器（ファン方式）を設置する方法。例一②（デイサービス併設のクリニック）：待合室、リハビリ室で下水臭がする。実際に臭気を嗅ぐことと発煙管で気流状況の確認、排水管系統の確認をした。待合室足洗い場や風呂場の排水口の水封トラップ部の汚れが多く、破水し易い状態であった。また、屋外下水管の排水樹の蓋を開放すると空気の噴出がみられ、下水臭がした。内視鏡で下水管内を調査したところ、管内上面に汚れあり。（満管流であったようだ、逆流の原因）臭気の原因として次のようなことが想定された。浄化槽曝気の排気不良で逃げ場がなく足洗い場等の水封トラップを破水した。各排水トラップ部の錆びや毛髪による汚れのため、毛細管現象が生じ破水した。二階排水系統通気管の目詰まり。対策案は次のとおり。清掃し易くするため铸铁製ワンをプラスチック製に交換、各トラップ内の定期清掃。浄化槽の臭突及び二階からの排水管の通気管のつまり点検。二階からの排水管に通気管を増設することを検討する。

○中田祐志氏講演概要：居住空間や自動車内など生活空間を対象とした「におい」の問題や現行の対策方法についての比較を交えた事例紹介。自動車車内空間は 3m³程度であり、密閉度が高くなりやすい環境下であり、臭いがこもり易く、なおかつ 60℃くらいになることも予想される。そのため、空調・におい対策の高度化が求められるとのこと。特に、自動車においては今後数年間のうち、EV 化やシェアリング事業の拡大など、環境の変化の大きな自動車に関する話題が中心となった。EV 化が進むと、自動車の部品構成が大幅に変わり、化石燃料を使用しなくなるので排気に伴う臭いの問題は回避できるが、空調のための電気

使用量節減技術が必要となる。一方、カーシェア方式が拡大した場合には、他人が使用したシート、ハンドルの汚れが何となく気になるという事例の紹介があり、(ベタベタ感やにおいに対しての) 従来の室内清掃とは異なる手法の開発が想定・要求される。

○パネルディスカッション：次のようなことが話題となった。A社の講演では、「脱臭の見える化」がキーワードとなっており、アートパネル（セラミック炭を利用したタペストリー）として壁に掛ける方法やセラミック炭の微粉末を練り込んだ壁掛け式の広告物にすること等に取り組んでいるとのことであった。脱臭・消臭などの製品を開発・事業展開するには、それを利用したり搭載する製品のメーカーとの連携が肝心。(家具、装飾品、建築物、自動車など) 業界とのタイアップが大事。実際OEM供給のケースは多い。脱臭・消臭装置などは要望に合わせて製造している。同じ適用業種であってもそれぞれのニーズに合わせた消臭剤を用いることなど、顧客ごとに対処するケースが多い。パネルの方々よりメーカーならではの苦労話を聞くことが出来た。参加者から、車内の換気量や結露対策の具体策についての質問や室内環境で問題となる極微量なにおいへの苦情が近年多くなってきたことへの対応等、活発な意見交換がなされた。

(横浜市伊藤)



3名の基調講演（写真は祐川会長）



パネルディスカッション